

人権作文

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。

【問】市人権同和教育推進室（☎77・8842）



蒲池小学校6年
濱武 ゆい さん

一人ひとりの思いや願いが 守られる世界に

貧困、戦争、災害など世界には、さまざまな問題があります。そしてその中で犠牲になっているのが、何の罪もない、たくさんの子どもたちです。世界では、6歳から17歳までの子どものうち、2億5800万人の子どもが、学校へ通えない現状があるそうです。一日中生きる心配をして過ごす子どももいます。私はこのことを知って、とても胸が痛くなりました。

ある日の道德の時間、思いやりや親切についてみんなで考えました。その時、ユニセフ親善大使の黒柳徹子さんの、「みんないっしょだよ」の考え方に触れました。障がいがある子、貧しい国の子、目の前で親を殺された子、本当にさまざまな現状の中で、みんな一生懸命生きています。

黒柳さんは、そんな子どもたちに、「何かしてあげる」という考え方はなく、「みんないっしょにやるんだよ」という思いが心の中にあり、その心を大切にしながら、世界中の子どもと触れ合っ

て活動されているのです。私はこのことについて自分なりに考えてみました。私たちがみんな、こんな風に生きたいという願いを持っていてと思います。たとえば、お腹が空いたら何か食べたい、毎日安心して眠りたい、学校へ行って勉強をしたい、大切な家族や友達と楽しく過ごしたいなどです。このような願いは、世界のどんな状況にある子どもたちにも、きっと同じようにあるはずです。「みんないっしょ」とは国籍、性別、住まいなどが違っても、みんな生きる願いや思いを

持った同じ人間、大切な命なのです。そのことに改めて気が付いたとき、私は自分のできることを探してみました。

学校の委員会活動での出来事です。私たちの委員会では、募金活動に取り組みむことになりました。私は、「これだ。」と思いました。ユニセフ募金や災害で被害にあった地域への募金活動に進んで取り組みました。昇降口に立って全校の友達に募金を呼びかけました。すると、2年生の女の子が、少し緊張しながら先生と一緒に来てくれました。勇気を出して募金をしてくれたその姿に、私は心があたたかくなりました。そして、募金を呼びかけてよかったな、という気持ちになりました。募金をして安心したように帰っていく女の子を見て、少しでも自分が何かの役に立つことを探して、勇気を持って行動する大切さを実感しました。

これから、家族や友達身近な人だけでなく、世界中の子どもたちの人権についても、もっと考えていきたいです。

一人ひとりの大切な命、思いや願いが守られる世界を目指して。

【先生からの一言】

世界の子どもたちの人権に目を向け、学習と経験を通してしっかり自分の考えを持ち、大切なことを伝えてくれました。一人ひとりの思いや願いに寄り添う優しい心。これからもたくさん見つけたり増やしたりしていきたいと思います。



広報やながわ

令和5年10月号 No.431

発行 柳川市 / 〒832-8601 福岡県柳川市本町 87-1
編集 総務部企画課広報広聴係（直通） ☎0944-77-8425 FAX74-5520
URL <https://www.city.yanagawa.lukuoka.jp/> ●e-mail kouin@city.yanagawa.lj.jp

発行日 令和5年10月1日
「広報やながわ」は、年齢や障がいの有無などを問わず、できるだけ多くの人が読めるように、ユニバーサルデザインを導入しています。

本の世界へ 旅に出よう

知識や想像力など私たちの心に「豊かさ」を与えてくれる読書。あめんぼセンターをはじめとする市立図書館には、約48万点の本や資料があります。10月27日からは秋の読書週間がスタート。この秋は、運命の一冊に出会うため図書館へ足を運んでみませんか。

市の最新情報は公式LINEで発信しています。プッシュ通知なので情報を見逃すことなく便利です。ぜひ友だち登録をお願いします。



CONTENTS	ページ
本の世界へ旅に出よう	2~7
特定健診、水郷柳川水まつりほか	8~13
もちふみ、まちかどレポートほか	14~17
お知らせ掲示板、活動紹介ほか	18~27